

BeFine!

第50期

第1四半期株主通信

2016年4月1日～2016年6月30日

証券コード 6869

シリーズ | フロントランナー ② 5ページ

グローバルに活躍できる 人材の育成



御崎公園駅前（神戸市）

円高の影響を受けながらも、 増収・増益を達成しました。

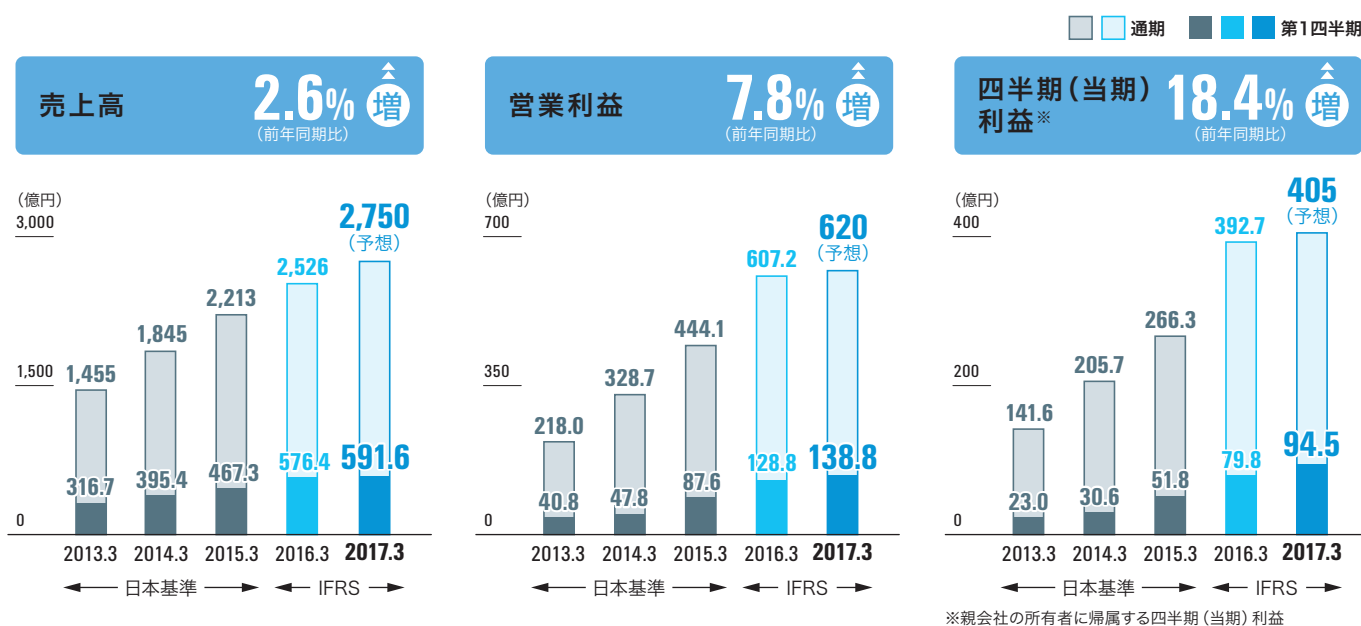
※当社グループは2017年3月期より国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。これに伴い、2016年3月期の数値についてもIFRSに準拠して表示しています。

IFRS

第50期
第1四半期の
ポイント

ポイント
1 現地通貨ベースで、全所在地において増収
円ベースでも全体として増収

ポイント
2 原価率が悪化したものの、
増収効果などにより利益が増加



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

当社グループの2017年3月期 第1四半期の業績は、現地通貨ベースでは全ての所在地において売上が伸長しましたが、円高の影響により、円ベースでは米州、EMEA、中国が減収となり、全体として微増となりました。また、原価率が悪化したものの、増収効果等により増益となりました。売上高は前年同期比2.6%増、営業利益は同7.8%増、親会社の所有者に帰属する当期利益は同18.4%増となりました。なお、前年同期の為替レートを適用した場合、売上高は前年同期比14.8%増、営業利益は同18.8%増となります。

国内は、「XNシリーズ」の販売が好調なヘマトロジー分野*に加え、血液凝固検査分野、免疫検査分野も伸長し、増収となりました。海外は、販売・サービス体制の強化や、ソリューション提案を進めた結果、ヘマトロジー分野や血液凝固検査分野を中心に機器の売上が伸長しました。特に中国では、免疫検査分野において、機器の設置台数の増加に伴い試薬の売上が伸長しました。これにより、当社グループの海外売上高比率は84.4%となりました。

2016年5月に公表した2017年3月期通期の連結業績見通しに変更はありません。*

当社は2014年に株式会社理研ジェネシスに出資し、個別化医療の実現に向けた取り組みを進めてきました。このたび、理研ジェネシスとの相乗効果をより発揮するため、同社の株式を追加取得し、当社の子会社としました。今後、遺伝子解析検査による個別化医療の実現に向け、研究開発や事業展開に取り組んでいきます。

株主の皆様には、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。



代表取締役会長兼社長

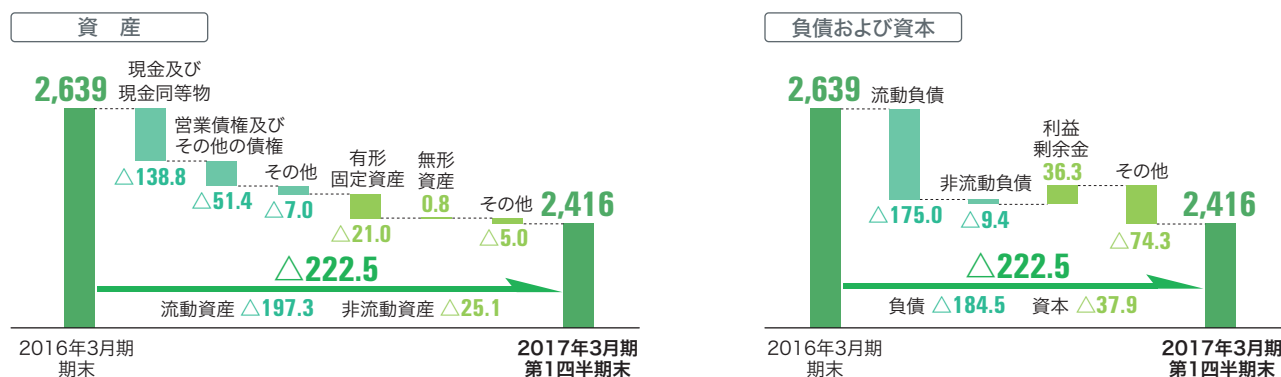
加 次 恒

いえつぐ ひさし

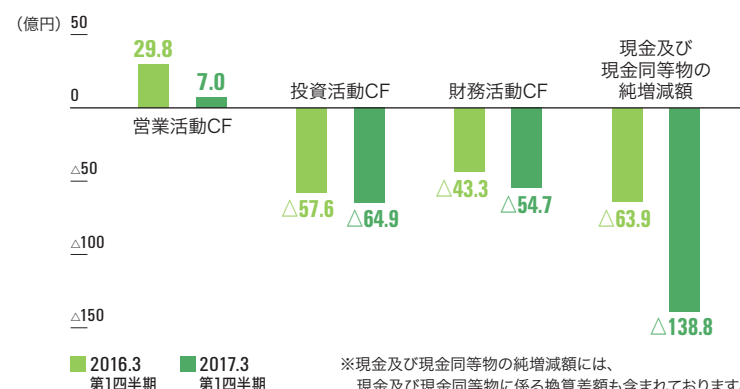
【出身地】大阪【略歴】大学を卒業後、銀行に13年間勤務。その後、東亜医用電子株式会社(現シスメックス株式会社)に入社。1996年に代表取締役社長、2013年に現職に就任。

【趣味】読書、スポーツ観戦【信条】「意あらば通ず」

●財政状態計算書の増減要因 (億円)



●キャッシュ・フローの推移



ウェブサイトのご案内

「シスメックス神戸マラソンスPECIALサイト」

神戸マラソンについての詳細はもちろん、ランナーの皆様にとって必見のお役立ち情報や最新のトピックスをお届けしています。

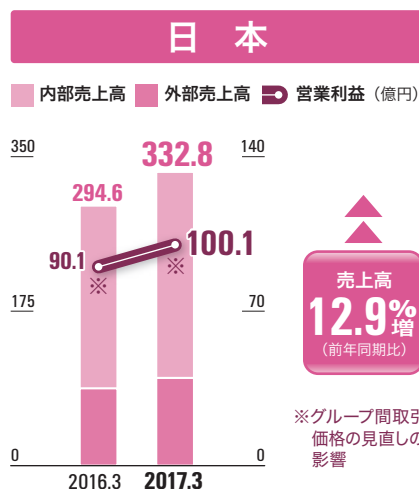


ぜひご覧ください。
<http://kobe-marathon.sysmex.co.jp/>

所在地別
セグメント

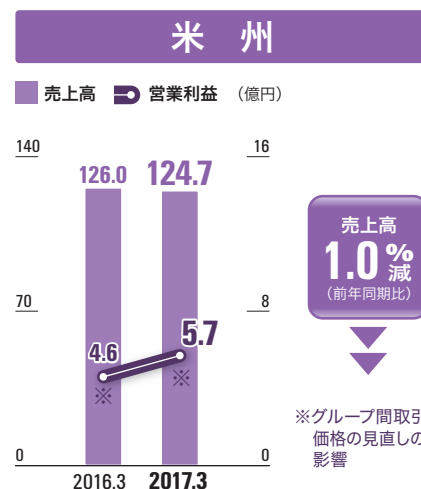
〈為替レート〉 (円)

	2016年 3月期 第1四半期	2017年 3月期 第1四半期
1USD/円	121.4	108.1
1ユーロ	134.2	122.0



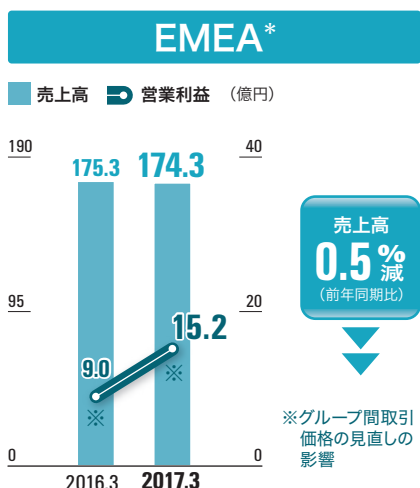
内部売上高：関係会社への輸出など
外部売上高：日本のほかに、
IDEXX社向けなどの売上を含む。

- 1 ヘマトロジー分野*や免疫検査分野、
血液凝固検査分野の売上が伸長し、
日本国内で増収となったことに加え、
海外関係会社向けの内部売上も
増加し、増収・増益となりました。



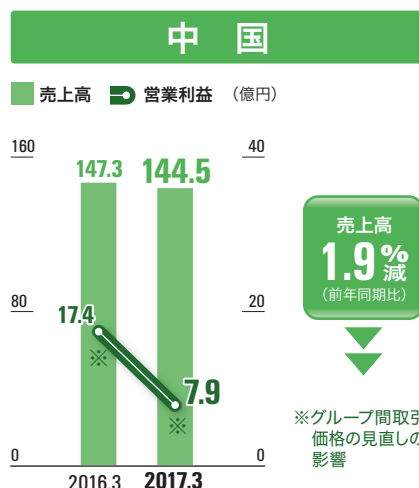
現地通貨
ベース 売上高 **11.1%増**
(前年同期比) 営業利益 **38.8%増**

- 1 現地通貨ベースではヘマトロジー
分野を中心に増収となるも、円高
の影響により、円ベースでは微減
となりました。
- 2 グループ間取引価格の見直しの影響
などにより、増益となりました。



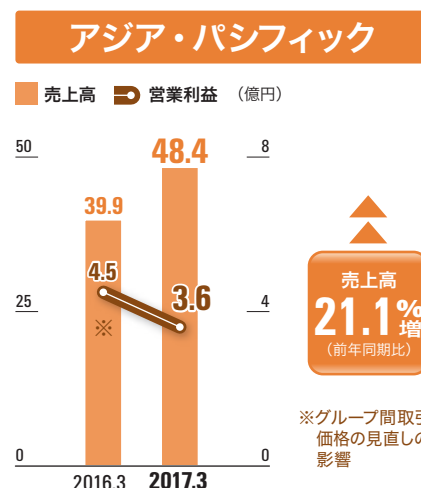
現地通貨
ベース 売上高 **9.4%増**
(前年同期比) 営業利益 **84.4%増**

- 1 現地通貨ベースでは増収となるも、
円高の影響により、円ベースでは
横ばいとなりました。
- 2 グループ間取引価格の見直しの影響
や販売管理費の抑制などにより、
増益となりました。



現地通貨
ベース 売上高 **16.1%増**
(前年同期比) 営業利益 **46.3%減**

- 1 現地通貨ベースでは増収となるも、
円高の影響により、円ベースでは
減収となりました。
- 2 対ドル人民元安の影響で、日本から
の仕入価格が上昇したことにより、
大幅な減益となりました。



※アジア・パシフィックについては、2014年3月期より
円貨のみの開示としています。

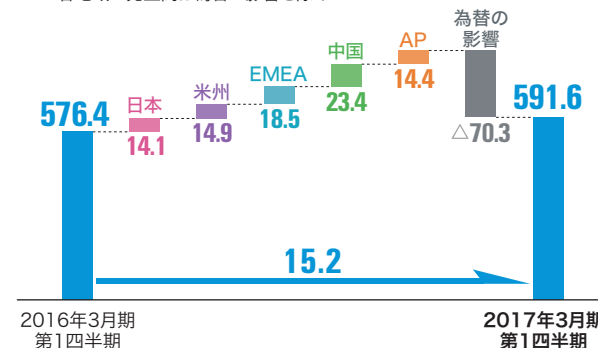
- 1 新規大型案件を獲得したオースト
ラリアを中心に売上が伸長し、増収
となりました。
- 2 機器の売上構成比の増加などによ
り原価率が悪化し、減益となりま
した。

(注) 日本からモンゴルなどへの直接販売は、日本の外部
売上高を含む。

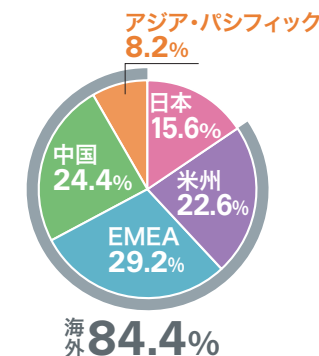
地域別・事業別セグメント

●地域別売上高の増減要因 (億円)

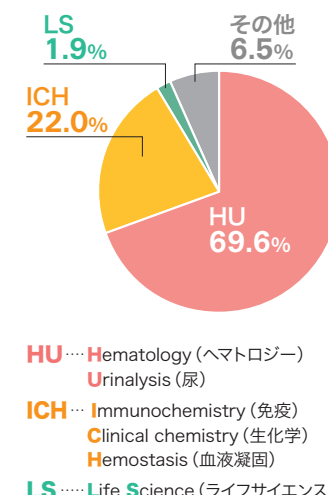
※各地域の売上高は為替の影響を除く



●地域別売上高構成比



●事業別売上高構成比



国際会計基準(IFRS)任意適用のお知らせ

シスメックスは、日本に加え米州、EMEA、中国、アジア・パシフィック
において、グローバルに事業を展開しています。このような状況を踏まえ、
資本市場における財務情報の国際的な比較可能性の向上により、国内
外の株主・投資家の皆様の利便性を高めることを目的として、国際会計
基準(IFRS)を任意適用しました。2017年3月期 第1四半期より
IFRSに基づき、財務情報を開示しています。

今回の株主通信から
IFRSにて開示
しています

Q IFRSとは?

A 国際会計基準審議会 (IASB) によって制定され
た会計基準です。資本市場のグローバル化に伴
い、国ごとに異なる会計基準では、企業活動の国際間で
の比較が困難になっています。そこで、世界共通の会計
基準として、多くの国で採用されているのがIFRSです。

Q IFRSの任意適用で、
どのように変わるの?

A 日本基準とIFRSでは、営業利益の構成内容が異
なっていたり、また、IFRSには経常利益の概念が
ないなど、さまざまな違いがあります。例えば、IFRSでは
「のれんが償却されない」、「一部の開発費を資産に組み入
れる」などの変更点があります。このため、2016年3月
期通期の実績では、以下のように数値に差異が生じます。

2016年3月期 実績

日本基準	主な差異理由	IFRS
売上高 2,531 億円	開発費の資産化 のれんの非償却 など	売上高 2,526 億円
営業利益 569 億円		営業利益 607 億円
当期純利益 362 億円		当期利益 392 億円

世界120カ国以上でIFRSが採用

日本でもIFRSを導入する
企業が増えているそうだね

グローバルに活躍できる 人材の育成

シスメックスは、事業をグローバルに拡大するとともに成長してきました。今後さらなる成長を遂げるためには、国内外を問わず、グローバルな舞台上で活躍できる人材が欠かせません。そこで、シスメックスの未来を担う人材の育成に向けた取り組みをご紹介します。

今回訪問したのは…

シスメックスの新たな人材開発拠点
「グローバル コミュニケーション センター」
(兵庫県芦屋市奥池)

「多様な文化や価値観を持つ人々が集い、議論を深め、ネットワークの拡大を図る場」として2015年4月にオープン。宿泊施設も備えており、人材育成および研修を中心としたコミュニケーションの場として、積極的に活用しています。



1「グローバル コミュニケーション センター」内の様子。車座になって語り合う「シアタールーム」など、自由闊達な議論を促す仕掛けを取り入れています。
2新入社員研修の様子。3開放的な空間のなかで議論を深める「コラボレーションスペース」。
4海外における採用活動や海外からのインターンシップ生の受け入れなども進み、職場の空気も少しずつ変わりつつあります。

多様な個の強みを認め合い、 チームワークを最大化できる 人材を育成します。

自主性・チャレンジ精神を重んじ、 多様性を活かす

当社の人材育成の目的は、世界中のグループ従業員一人ひとりが働きがいを感じ、成長し、挑戦することで、企業理念で掲げている「ヘルスケアの進化をデザインする。」というミッションを実現することに他なりません。今、私たちが必要としているグローバルな人材とは、単に外国語が話せるといった能力のみを指すのではなく、広く世界の医療に貢献する強い意志と目的意識を持つ人材です。また、独力で仕事を行うだけでなく、多様な個の強みを認め合い、チームワークを最大化できる人材を求めています。そして、特に私たちが大切にしているのは、創業以来、シスメックスの成長を支えてきた「チャレンジ精神」を未来へと確かに継承し、独創性あふれる新しい価値を生み出していく土壌を築くことです。それが持続

されることで、シスメックスはさらに進化し、成長するものと確信しています。

グループ共通の「人材開発体系」を 整備し、体系的な人材育成に着手

2014年に、これまで個別に実施してきた「配属」、「評価」、「研修」の仕組みを見直し、シスメックスグループ共通の「人材開発体系」として整理し、総合的な人材育成に着手しました。これまでその時々で実施してきた研修も体系化し、オープンにすることで、従業員一人ひとりが自らのキャリアプランを自主的に考えるきっかけにもつながっています。

また、従来からある「階層別研修」、「選抜研修」においては、仕事に必要な知識を習得するだけでなく、多様な個の強みを活かし、組織を動かすマネジメント力を重視した取り組みを

進めています。さらに、新たに設けた「シスメックス カレッジ」※1というプログラムは、社員自らの「学びたい」、「成長したい」という自主性を尊重した内容となっています。このような新たな取り組みの結果、研修の受講者総数は、人材開発体系を導入する前の1,215名(2013年度)から、導入後には2,937名(2015年度)へと増加しました。

グループ全体では、異なる文化や価値観を持つ人々が互いを尊重し、チームワークを発揮できる環境づくりを目的に、「グローバル アプレンティス プログラム」※2や、グループ関係会社との「グローバル人材交流プログラム」などを導入し、地域や国の壁を超えた交流を促しています。このように、シスメックスではさまざまなプログラムを通して、従業員に成長の機会を提供しています。今後も人材育成の仕組みをさらに充実させることで、ヘルスケアの未来を切り拓く人材を多く輩出したいと考えています。

POINT 1 自ら教え、自ら学ぶ「シスメックス カレッジ」※1

本人の「学びたい」、「成長したい」という意志を重視し、社員自らが受講内容を選択する研修です。「ビジネス実務研修」と「シスメックス・ナレッジ」の2種類があり、シスメックスならではの実務知識やスキルを習得する「シスメックス・ナレッジ」では、課長職以上の社員が自ら講師を務めることで、講師となる人材の能力開発にもつながっています。



社員による講義の様子

POINT 2 海外で実務を経験する「グローバル アプレンティス プログラム」※2

グローバルに活躍する人材の早期育成などを目的とした、海外研修プログラム(数力月から数年)です。参加者は海外の当社現地法人や関係会社に派遣され、「アプレンティス」(実習生、実務見習い)という名称の通り、実務を経験しながら学びます。2012年に開始して以来、累計約30名の社員を世界中に派遣しています。



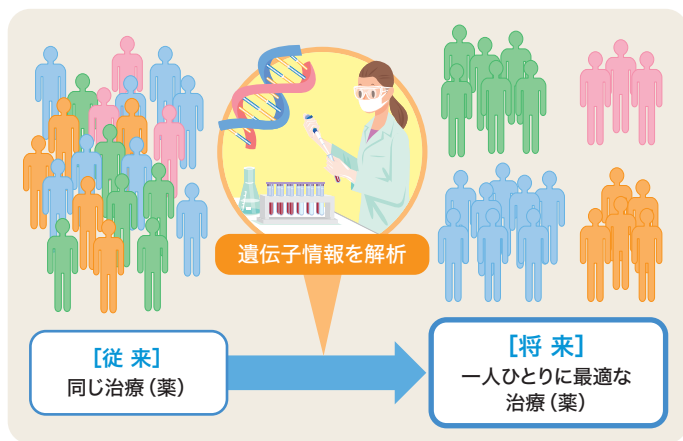
ドイツでの仕事の様子

理研ジェネシスの子会社化

患者さんの遺伝子情報をもとに、一人ひとりに最適な医療を提供する「個別化医療」のニーズが高まっています。株式会社理研ジェネシスは、遺伝子を検出し、遺伝子情報と病気との関係を解析する最先端の技術や経験、ノウハウを有する企業です。当社は2014年に理研ジェネシスに出資し、以降、国立がん研究センター内に設置したラボを共同で運営するとともに、個別化医療の実現に向けた取り組みを進めてきました。

このたび、理研ジェネシスと互いに効果を発揮し合い、取り組みを加速させるため、理研ジェネシスの株式を凸版印刷株式会社より追加取得し、64.7%の株式を保有することで、当社の子会社としました。今後、最新鋭の遺伝子解析センター*を新設するなど体制を強化し、研究開発や事業展開に取り組んでいきます。

***遺伝子解析センター**：遺伝情報を持つDNAの塩基および配列を、同時並行で大量に読み取る装置を設置し、遺伝子情報受託解析サービスを提供する施設。



シーメンスヘルスケア社と血液凝固検査用製品に関する契約を更新

当社とシーメンスヘルスケアダイアグノスティクス社は、1995年に血液凝固検査用製品に関するグローバルな販売・サービス契約を締結し、20年以上にわたり強固な協力関係を構築しています。世界中のお客様へ引き続き豊富なソリューションを提案するため、契約を更新し、2020年まで業務提携を継続することとなりました。今後も互いの強みを活かし、血液凝固検査分野におけるビジネスの拡大を図るとともに、検査の標準化やさらなる質向上に貢献します。

ミャンマーに支店を設立

アジア・パシフィック地域の統括現地法人の支店をミャンマーに設立し、2016年5月より営業を開始しました。アジアのラストフロンティアと呼ばれるミャンマーは、東南アジアでトップクラスのGDP成長率を誇る一方、GDPに対する医療費の割合や1人当たりの医療費は、依然として低い水準に留まっています。

当社はこれまで、統括現地法人や現地代理店を通じて、ミャンマーで販売・サービス&サポートを行ってきました。今回の支店の設立により、サービス&サポートの強化や、新たな事業の拡大に向けた市場調査を進めるほか、医療従事者に対して学術支援活動を展開するなど、医療水準の向上にも貢献していきます。



会社概要

(2016年6月30日現在)

■商号 シスメックス株式会社
SYSMEX CORPORATION
■設立年月日 1968年2月20日
■資本金 112億8,314万円

■格付け A+ (R&I: 格付投資情報センター)
■従業員数 7,632名(連結) 2,581名(単独)
*嘱託・パートタイマーなどを含む
■主な事業内容 臨床検査機器、検査用試薬ならびに関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入

株主メモ

■事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会 6月
■基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。

■公告方法

当会社の公告方法は、電子公告とします。
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
電子公告掲載ホームページアドレス www.sysmex.co.jp/ir/

■上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
■証券コード 6869
■単元株式数 100株
■株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
■同連絡先 (郵便物送付先・電話照会先)
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777 (通話料無料)

お知らせ

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。 2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取り扱いいたします。 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。